ICT活用工事計画書

工事名	ļ				
工事箇所					
受注者名					
チェック欄	施工プロセスの 段階		作業内容	採用する 技術番号	技術番号·技術名
	(1)3次元起工測 量				1. 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2. 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3. TS等光波方式を用いた起工測量 4. TS(ノンブリズム方式)を用いた起工測量 5. RTK - GNSSを用いた起工測量 6. 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7. 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8. その他の3次元計測技術を用いた起工測量 [8. を選択した場合の技術名称:
	(2)3次元設計 データ作成				
	(3)ICT建設機械 による施工		据削工 盛土工 法面整形工 不陸整正 下層路盤 上層路盤		1. バックホウ(ICT施工対応型) 2. ブルドーザ(ICT施工対応型) 3. モータグレーダ(ICT施工対応型) ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲(別途平面図等による)については、受注後の協議により決定する。
	(4)3次元出来形 管理等の施工管理		出来形		1. 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2. 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3. TS等光波方式を用いた出来形管理 4. TS(ノンブリズム方式)を用いた出来形管理 5. RTK - GNSSを用いた出来形管理 6. 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7. 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8. 施工履歴データを用いた出来形管理 9. その他の3次元計測技術による出来形管理技術 [9. を選択した場合の技術名称:
			品質		10. TS・GNSSによる締固め回数管理技術(土工) 注5)品質管理をしない理由 []
	(5)3次元データの納品				

注1)ICT活用工事の詳細については、「森林整備保全事業ICT活用工事試行要領」及び特記仕様書によるものとする。

注2)ICTを活用する施工プロセスに「☑」を付けること。

注3)採用する技術番号欄には、複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 (「採用する技術番号」欄の記載例 : 「1」,「1,3」)

注4)(1)、(4)において、「8or9. その他の・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。

注5)品質管理(締固め回数管理)をしない場合は、理由を記載すること。 (理由例:「掘削工のみのため。」、「土質が頻繁に変わり、その都度試験施工を行うことが非効率であるため。」等)